

「主張のストラテジー」に関する韓日対照研究 —新聞社説の場合—

李貞旼

学位取得年月：平成 18 年 3 月

取得学位名：人文科学博士

学位授与機関名：お茶の水女子大学

【キーワード】新聞社説、韓日、対照研究、文章構造、主張

【要旨】

本研究は、意見を主張することを主な目的とする論説文のジャンルとしての韓日の新聞社説の文章を資料として、韓日両言語間の主張の表し方を文章構造の面から比較対照することを目的とする研究であり、全 5 章から構成されている。

第 1 章では、本研究の理論的背景・動機・意義などについて述べると同時に、本研究の全体的な構成について述べた。

第 2 章では、本研究に関連する対照言語学と日本語学における先行研究を概観した。文章構造を把握する観点はさまざまであるが、代表的な分析観点を取り上げて検討するとともに、文章論研究における分析方法上の問題点を明らかにし、文章構造の韓日対照研究の必要性を提起した。最後に本研究の目的と方法を示した。

第 3 章では、「統括論」の観点から、韓日の新聞社説のマクロ構造の特徴を述べた。ここでは、次の 3 つの研究項目に分けて分析を行った。①「文章のマクロ構造」を把握するための重要な要素である「主題文」は、どのような観点から認定すると、有効であるか(方法論研究)。②韓日両言語には、社説の文章のマクロ構造にどのようなパターンの違いが見られるか(対照研究)。③韓日の新聞社説の文章の「主題文」には、どのような表現類型が見られるか。

第 4 章では、「接続論」と「連鎖論」の観点を援用して、韓日の新聞社説の文章のミクロ構造の特徴について述べた。分析方法としては、表現形式と内容の両方を考慮に入れて、文の機能を分類した上で、その文の機能の相互関係や全体的な流れをみた。ここでは、次の 2 つの研究項目に分けて分析した。まず、

(1) 書き出し文(第 1 文)の文章展開における役割を重視して、第 1 文における文の機能の特徴を韓日対照した。そして、文と文との相互関係を明らかにするために、上に述べた第 1 文に続く第 2 文の文の機能を分類し、第 1 文が第 2 文に与える影響について探り、韓日対照した。次に、(2) 文章全体における主な文の機能を設定し、主に、書き手の表現意図に注目して文の文章全体における流れを分析するため、叙述方法の面から、文の機能を「事実」と「意見」とに大別して、韓日の文の流れの様相を把握し、韓日の文章展開のパターンの異同について述べた。

第 5 章では、本研究の結論を述べた。ここでは、本研究で明らかにした韓日の新聞社説の文章のマクロ構造及びミクロ構造の特徴について主張との関連から考察するとともに、統語論と文章論と語用論の面からみた相互関連性についての考察を行った。最後に、今後に残された研究課題を述べた。

本研究は、韓日語は統語面では大変類似しているとよく言われるが、韓日の新聞社説の文章における文章構造には違いがみられることを示したものである。統語論と文章論の間の密接な関連を示唆する指摘が多いが、本研究は、韓日の新聞社説に限定されとはいえず、マクロとミクロの両構造から、文章論は統語論の単なる延長ではなく、独自の原理が働く独自の領域であることを示唆したといえる。同時に、本研究は、韓日では期待される文章の型に違いがあることを示したものである。さらに、本研究は韓日語には主張を述べる際のパフォーマンス、主張のストラテジーに違いがあることを示唆しており、このことは韓国人日本語学習者の日本語の作文や会話に主張のストラテジーの違いが反映されている可能性を示したものと考えられる。

(い じょんみん)